

コロナに負けるな! ~ドキュメント~

緊急事態宣言下の『調布市内の福祉事業所』

緊急事態宣言下の4月7日から5月25日、この前代未聞の事態に市内の福祉事業所がどう対処していたのか。利用者、保護者、スタッフ...その様子を紹介します。



「しごと場大好き」では、マスク着用はもちろん作業やミーティング時の席の間隔も拡大



食事スペースにも仕切り板を設置



食事も一方通行にして席が向き合わないよう工夫

新型コロナウイルスの感染拡大による国民生活や経済への甚大な影響を抑制するために、4月7日に東京都を含む7都道府県に緊急事態宣言が発令され、4月16日には全国へと対象が広がりました。

「コロナ禍でも、福祉サービスは利用者やその家族の安心した生活のために必要不可欠なサービスの一つです。多くの事業所が必要な支援を途切れさせないよう、戸惑いつつも模索しました。しかし、福祉現場での支援は基本的には「人と人が接触すること」で成り立つもので、感染拡大を防ぐための「人と人とが接触しないようにする」という対策とは反し、両立が難しいという課題があります。

そのような状況の中で、各事業所とも国や自治体の通知を確認しつつ、様々な工夫をして感染対策を図り、「コロナ禍に立ち向かっています」。



「調布を耕す会」が運営する「カフェ大好き」では7月の1カ月間、非常事態宣言下で利用者制作した作品を展示する「ステイホームコレクション」を開催



感染防止対策として、カフェでは仕切りのカーテンを設置。事業所でも、食事の際各テーブルへの仕切り設置のほか、向かい合わせにならないよう着席するなどの対策が取られた

初めての在宅支援に工夫を重ねる

今までなかった在宅支援、分散通所などを認める通知

2月から各福祉事業所へ施設運営、職員配置などについて、厚労省や自治体から次々と対応の指示が届きました。3月になると「就労支援事業所」に「在宅支援を認める」という通知が届き、続いて他の障害福祉サービスでも同様の対応となりました。

対象事業のうち就労支援B型施設は、本来「通所者」を受け入れて仕事（福祉サービス）を提供することが設置目的です。コロナが拡がり、マスクの着用、検温、手洗い、う

がい、消毒を徹底して2〜3月を乗り切りきつてきましたが、感染拡大が止まらない状況下、基礎疾患を持つ利用者が大勢いる中で、出勤時の移動、作業時の場面などでも「密」をなくすことは難しく、「通所」を続けるには厳しい状況でした。

そうした状況を踏まえての「在宅支援を認める」という通達でしたが、通所により支援を行なう事業所にとって「在宅支援」は初めてのことで、市の福祉課や市内の連絡会に加盟する福祉事業所と連絡をとりあったり、在宅での個別プログラムをどうするか職員で支援の内容や態勢を考へ、

しごと場大好きでは4月13日から在宅支援開始

就労継続支援B型事業所のひとつである「しごと場大好き」では、職員の協議や理事会の承認を経て、職員と利用者をつなぐグループに分け、チームごとに利用者に合わせてプログラムを決め、在宅支援が開始されました。在宅支援5チームは、本人はもちろん家族にも負担にならないよう注意しながら、在宅での課題を設定し、毎日ご家族や本人と電話やメールなどで連

閉所・開所期間や感染防止、感染者が出た場合の対応などさまざまな協議を重ねられました。

絡を取り合いながら支援を続けました。

今まで経験のなかった在宅支援を行なう中で、さまざまな発見がありました。「言われなくても洗い物をしてくれるようになった」「残りのものを小皿に入れて冷蔵庫にしまってくれるようになった」「毎日祖母に絵葉書を書いているうちに日付や天気を書けるようになった」などいろいろなエピソードが生まれました。また、課題提供に応じた利用者からは、切り絵、貼り絵や裁ほう、組ひも、学習ドリル、手紙など日常の作業では見られなかった多くの作品が生まれました。

★ 一方で保護者側は外に出られず、落ち着いて本人と向き合う時間が長くなり「負担が大きい、在宅支援がこれ以上伸びたら限界」といった声もきかれました。一部、在宅が続くのが厳しい方を曜日限定の通所に切り替え対応したケースもありました。

休業（閉所）、在宅支援、分散通所、半日通所等の態勢を段階的に切り替えて、緊急事態宣言期間を乗り越えました。また、施

設内では、ビニールカーテンやアクリル製の仕切り板などを作ったり、食事も向かい合わないよう机を移動、一方通行にし、時差を設けるなどの工夫も行いました。一方で職員の通勤も苦労を伴いました。もとよりリモートワークのない仕事。公共交通機関が利用しにくくなった職員もいて、シフトを組むのは大変でした。

亀田施設長は、「当初は慣れない在宅支援態勢や分散通所に戸惑う利用者もいましたが、保護者の理解と職員間の連携、利用者の適応力で、想像していたより穏やかに過ごすことができました。

密を避ける運営、在宅支援や分散通所など、第一波からは多くのノウハウを学ぶとともに利用者の可能性に気づかされる機会となりました」と語ります。

「新型コロナウイルス」の動き

- 2019年 中国湖北省武漢市で「新型コロナウイルス」が発生
- 12月 2020年 日本でも感染者を確認
- 1月15日 WHOが「緊急事態宣言」を発表
- 1月28日 中国・武漢市からのツアー客を乗せたバスの運転手が国内で日本人初感染
- 1月30日 政府が「新型コロナウイルス感染症対策本部」を立ち上げる
- 2月1日 新型コロナウイルスを指定感染症として定める政令が閣議決定
- 2月3日 クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス」が横浜へ帰港。以降、2週間の隔離検疫。複数の感染者を確認。最終的な感染者は712人に。19日に14日間の隔離解除
- 3月2日 全国の小中高等および特別支援学校、休業
- 3月3日 大阪のライブハウスでクラスターが発生
- 3月3日 プロ野球開幕延期を決定
- 3月11日 春の選抜高校野球の中止決定
- 3月11日 世界保健機関(WHO)が「パンデミック」相当と認定
- 3月13日 株価大暴落。1万7000円割れ
- 3月15日 全国15カ所でクラスター発生
- 3月24日 マスクの転売禁止
- 3月25日 東京五輪・パラリンピック延期決定
- 3月26日 外務省、海外渡航自粛を要請
- 3月30日 政府、首都圏全体で外出自粛を要請
- 4月2日 小池都知事が夜間の外出自粛を要請
- 4月3日 全国各地でクラスターが発生
- 4月3日 国内感染者が3000人を突破
- 4月7日 7都府県に緊急事態宣言
- 4月16日 緊急事態宣言を全国に拡大
- 4月18日 国内感染者1万人を突破
- 4月28日 東京の感染者が累計4000人超に
- 5月4日 緊急事態宣言を31日まで延長
- 5月7日 国内新規感染者1000人を下回る
- 5月14日 全国39県で緊急事態宣言を解除
- 5月21日 関西エリアの緊急事態宣言を解除
- 5月25日 緊急事態宣言すべて解除